コーディネーターコラム

余島 純

はじめに

江田島市の各学校では、地域資源を活用した学びが大切にされ、試行錯誤しながら取り組まれてきました。

その中でも、「さとうみ学習＝海に関連するヒト・モノ・コトを活用した学習活動」は各学校の特色を反映しながら展開されています。

本コラムでは、さとうみ学習コーディネーターの取組を整理し、連携可能な地域事業者と実施できる活動やこどもたちのさとうみ学習成果の発表方法について紹介します。

コーディネーターの取組

各学校でのさとうみ学習の実施を支えるコーディネーターとして、どのような活動を行ってきたのかを振り返ります。

1年目（令和5年4月～令和6年3月）

活動内容	目的
各学校での実践を踏まえ、モデルケースを整理	各学校の特色を活かした実践の参考とする
先生方と意見交換を行い、学校の教育活動との接点を探る	さとうみ学習を授業に組み込むための工夫
さとうみ学習の考え方や活用アイデアを先生方と共有	学びを深めるための指針を明確化
さとうみ学習を定義：「海に関連するヒト・モノ・コトを活用した学習活動・体験活動」	さとうみ学習の共通理解を図る
さとうみ学習の実施にかかる自治体予算化や外部資金の活用を検討。ふるさと実感事業拡充、笹川平和財団助成金採択	持続可能な活動として継続可能にする

2年目（令和6年4月～令和7年3月）

活動内容	目的
さとうみ学習の「発達段階に応じた学びのステップ」や「各学校への展開」を整理し、コンセプトシートを作成	さとうみ学習の体系化と実践の指針を提供
さとうみ学習のコンセプトシートを活用した校長会等での説明や情報共有を実施	先生方の理解を深め、実践の機会を広げる
地域内外の協力者のリストを作成し、マッチング支援を実施	学校と地域がつながりやすい環境を整える
地域協力者の知見やノウハウを活かした学習活動の充実	さとうみ学習の質を向上させる
夏の研修を企画・実施し、先生方が学びを深める機会を提供	教員研修を通じた学びの発展
さとうみ学習フェスタの企画・運営	こどもたちの学びを地域に発信する場を提供
実践事例の作成フォーマットを作成し、各学校に配布	各学校の取り組みを蓄積し、共有する

コンセプトシートは実践事例集に掲載済み。協力者リストは次ページに記載。

地域事業者・高専との連携

この2年間さとうみ学習コーディネーターとして、学校と地域の諸団体、そして、専門機関との連携体制の構築に努めてきました。ここからは地域事業者や高等専門学校（高専）との連携によって、できる活動を紹介します。海に関連する専門家である地域事業者やその専門教育を行う高専との連携により、さとうみ学習はより充実したものとなるはずです。連携を希望される場合は、教育委員会学校教育課担当者までご連絡ください。

●外部と連携した体験活動の実施までのプロセス

●地域事業者の方と実施できる活動の例

団体名	場所	時期	コマ	活動内容
江田島カヌークラブ 江田島シーサポート	長瀬海岸	5～9月	3	・穏やかな海面でカヤック体験 ・穏やかな海面でSUP体験
OTONARI	長瀬海岸	6～9月	1～3	・長さが5mの大きなボードで海体験 ・ビーチでシートを敷きヨガや運動
長浜カヌークラブ 長浜SUP	長浜海岸	5～9月	3	・砂浜の清掃活動 ・穏やかな海面をカヤック&SUP
BOON	プール ・黒神	5～9月	1	・ウェイクボードをプールまたは海で体験
魚商かぐら	各学校の調理室	通年	1	・釣り体験、魚捌き体験、3枚おろし ・釣り具、はり、えさ提供（えび、アサリ）用意
漁協婦人会の皆様	各学校の調理室	通年	1	・魚捌き体験 ・3枚おろし
オイスター ファクトリー	オイスター ファクトリー		通年	・加工工場の見学 ・仕事内容の紹介
Byucca	Byucca		通年	・海の観光施設の見学
江田島荘	江田島荘		通年	・海の観光施設の見学 ・料理提供
オリーブラボ	オリーブラボ		通年	・オリーブオイルで作る海鮮料理体験
一般社団法人フウド	入鹿海岸 or 学校教室		通年	・海岸に打ち上げられたごみ拾い ・海洋ゴミで作るアート制作
沖山工房	交流の家 or 沖山工房		通年	・牡蠣殻釉薬が特徴の江田島焼きを体験
さとうみ科学館	江田島市内		通年	・干潟で生き物観察 ・その他、生き物や海に関する授業
まなびの館	まなびの館		通年	江田島・能美島の歴史からさとうみを学ぶ

●広島商船高等専門学校と実施できる活動の例

科 目	タイトル	時期	コマ	概 要	活動内容
社会	「運ぶん。届けるん。なんぼか かるん?」流通を支える ネットワークゲーム	通年	1	モノを効率的に運ぶ仕組みを、オリジナルのボードゲームを使って楽しみながら学ぶことができる。	流通について簡単に解説した後、ボードゲームで遊びながら学ぶ。 物流センターの役割について学ぶ。 ボードゲームは4セット（1セット5名）分しかので、生徒数が20名を超える場合、2人組等での対応が必要である。
社会	瀬戸内地方の造船業	通年	1	瀬戸内に造船業が集中した理由について、歴史上の出来事との関連を踏まえて、日本の造船業の現況について説明する。	導入：国別の建造量からわが国の造船産業の現況を知る。 展開：地理的・歴史的な要因についてクイズ形式で出題し、瀬戸内海で造船が盛んになった理由を考える。 まとめ：1隻の船が建造されるまでの過程を説明し、瀬戸内海における造船業の重要性を理解する。
社会	人類の歴史と船の関わり	通年	1	船は人類の生活圏の拡大や貿易による経済の発展に大きく貢献してきた。学校で習う歴史を、船という側面から考えてみる。	導入：世界4大文明の発祥地と船の役割から、文明の発達に必要な要素を知る。 展開：世界史における大きな出来事をたどりながら、移動手段としての船の構造の変化を理解する。 まとめ：人類の歴史には船の発達も少なからず影響していることを理解する。
社会	わが国の海運産業	通年	1	海運を形成する船や港、造船など、海運産業について紹介する。	導入：天ぷらそばからわが国の食糧需給率を考え、わが国のエネルギー及び生活物資の輸入依存度を知る。 展開：海で活躍する船の種類と構造、一隻で運搬できる量をクイズ形式で出題し、船に関する知識を深める。 まとめ：船（海運）以外の物流を支える他の海事産業を知り、我が国における海事産業の重要性を理解する。
社会	瀬戸内海と我が町(郷土学習)	通年	1～2	瀬戸内海と自分たちの住む町との関わり、瀬戸内海において古の時代からモノや人や文化を運んだ船について学習する。	導入：海に囲まれた日本、瀬戸内海、江田島で存在した「どぶね」の紹介をする。 展開：島の海岸線の様子、「カンムリウミスズメ」などの画像から江田島の自慢（景色、生活、慣習）を再発見させる。 まとめ：江田島をあらためて見つめ、自慢を見つけることを通して郷土愛を高める（小学6年社会科に繋げる）。
社会	海・船・環境	通年	1	海の役割や船の種類・歴史、海運の必要性、船の環境対策等について分かりやすく説明する。	導入：海の広さ、役割、船とは何か等を説明する。 展開：船の歴史や構造及び種類、船員の仕事、海上輸送の現状と特徴、環境に対する工夫等について、クイズ形式で出題し、船や海運に関する内容について説明をする。 まとめ：船の知識を身に付け、我が国における海上輸送の重要性を理解する。
社会	瀬戸内海とものはこび（郷土学習）	通年	1～2	ものづくりの国日本は、船によって国内も外国とも繋がっている。船の基礎知識・瀬戸内海を通してものはこび(海運)を学ぶ。	導入：世界の海から瀬戸内海について、昔の瀬戸内海の海運、製造業・船・造船のつながりを知る（小学5年社会科に繋げる）。 展開：瀬戸内海から世界でなどで活躍するいろいろな船舶や港の紹介をする。 まとめ：広島（日本）から世界が船によって繋がっていることの理解と海洋への関心を高める。
体育	体験!シーサバイバル	6月～10月	2	防ごう水難事故！水難事故発生時における自己救命と他者救助法の紹介を行う。また、着衣泳法の実技指導や救命胴衣の重要性について学ぶ。	導入：水難事故発生時における自己救命と他者救助法についての動画教材を使用して説明する。 展開：実際にプールで、自己救命と他者救助方法について体験する。 まとめ：水難事故発生時における自己救命方法と他者救助法を会得する。
理科	海とアマモとわたし	4月～7月	1～2	海洋環境ドリルで身近な海洋環境問題について学ぶ。私たちが海に どんな影響を与えているか、どんなことができるのかをドリルやフィールド ワークを通して海洋リテラシーを育てる。	導入：海洋環境ドリルを使用して海洋環境問題について説明する。 展開：海洋環境ドリル内の質問題について考え発表する。 まとめ：海洋環境問題について理解する。
図工技家	インターネットと"海"がつなが る	通年	1～2	広島県の海とインターネットがつながることで、皆さんの生活が変わっていくことについて、小さなパソコンやデータベースを使いながら考えていく。IoTや海洋、SDGsについて、分かりやすい導入の授業となる。	インターネットと海がつながるとは？→海で活躍するセンサーやロボット→自動運航船が生活を変える→簡単なWS （江田島でどのように活用していくか）
国語	瀬戸内海と日本文学	通年	1	古来から交通の要衝である瀬戸内海を舞台とした日本古典文学作品を紹介する。（万葉集・源氏物語・平家物語・中世日記紀行文・五山文学・若杉 慧『エデンの海』等）	瀬戸内の交通の要衝であった鞆の浦を舞台にした、大伴旅人の万葉歌を紹介する。

地域と連携して実施したさとうみ学習のアイデア

ここでは地域と連携したさとうみ学習の展開のアイデアを紹介します。

単元名は、**「江田島の海とつながる畑～きみは、江田島の海とつながる畑をつくれるか！？～」**

江田島の人々は、自らの手で環境を豊かにし、その恵みを活かして生きる力を持っています。海の資源を活かして、栄養たっぷりの土（肥料）をつくり、その土で野菜を育ててみる。地域の方と一緒に収穫して、みんなで味わってみる。

こうしたところから始まる自然や人との共生や循環の仕組みを学び、菜園として表現することができます。このような経験を通じて、こどもたちは食べものの大切さや、自然環境と人とのつながりを実感できるはず。

たくさんの野菜や植物が育ち、人や生き物が集まる豊かな環境が生まれていた。そんな風景を、学校の菜園でもつくってみませんか？

下にステップや活動内容の例を示します。

ステップ（例）	活動内容（例）
江田島の海について学ぶ	海洋環境や漁業について学び、海の資源がどのように活用できるかを考える。（漁業関係者と連携）
海草や牡蠣殻で堆肥作り	海の恵みを活かし、海草や牡蠣殻を利用した栄養豊富な堆肥を作る。（漁業関係者と連携）
学校の敷地内で野菜作り	土壌を整え、学校の畑で野菜を育てるプロジェクトを実施する。（学校菜園を活用）
野菜の収穫	育てた野菜を収穫し、学校や地域の人々と食を通じた交流を行う。（地域の方と連携、地域のイベントに出展）

江田島の海について学ぶ

海草や牡蠣殻で堆肥作り

学校の敷地内で野菜作り

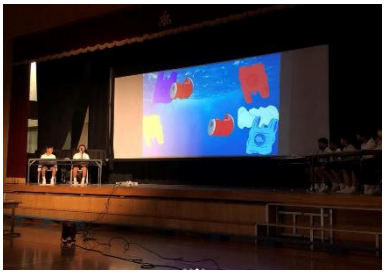
野菜の収穫

さとうみ学習の表現方法

ここではこの2年間で実際に行われたさとうみ学習にかかる表現方法の例を紹介します。

学習成果の発信方法には、校内での発表会や動画プレゼンテーション、他者へのレクチャー、外壁アート、オンライン発表、おもちゃ作り、学校の畑や田んぼ（海草肥料の活用）、コンクール向けの創作、オブジェ制作、地元食材を使ったレシピ開発、地域の方とのディスカッション、他校での発表など、多様な形があります。

学びの成果を効果的に可視化し、広く発信することは、教育活動の発展において重要な要素です。また、こどもたちの学びの過程や成果を多様な形で表現し、地域社会や他の学校と共有することで、新たな学びやつながりが生まれます。



校内での発表会

動画プレゼンテーション

他者にレクチャー

外壁アート

オンラインでの発表

おもちゃ作り

学校の畑や田んぼ（海草肥料）

コンクールに向けた創作

オブジェ制作

地元食材を使ったレシピ

地域の方とディスカッション

他校との交流

●表現方法に関する目的と実践の例
ここでは表現方法の目的と実践の例を整理してみました。ぜひ今後も各学校において多様な表現方法にチャレンジしてみてください。

表現方法	目的例	実践例
校内での発表会	学びの振り返りと共有	校内・学年発表会
動画プレゼンテーション	記録を残し、他校や地域と共有	YouTube・SNSでの発信
他者へのレクチャー	理解を深め、発信力を高める	他学年や地域イベントでの発表
外壁アート	学びを視覚的に記録し、地域と共有	学校の壁に海の生態系を描く
オンライン発表	地域外の人々とつながる機会を作る	地域外の学校とZoom発表会
学校の畑や田んぼ（海藻肥料の活用）	環境と食のつながりを学ぶ実践型活動	海藻堆肥を活用した学校菜園
コンクール向けの創作	学びを作品化し、表現力を育む	絵画・作文コンクール出展
オブジェ制作	地域の人々との対話のきっかけを生む	漁業資源をテーマにしたオブジェ制作
地元食材を使ったレシピ開発	地域の食文化を学ぶ	地元食材を使った給食開発
地域の方とのディスカッション	世代や立場を超えた視点を得る	漁師・農家との座談会
他校との交流	他校や異学年との交流により新しい視点を得る	さとうみ学習フェスタや学校連携

終わりに

この2年間を振り返ると、さとうみ学習は多くの方々の御協力と御尽力によって支えられ、発展しています。先生方が授業に創意工夫を凝らし、地域の皆さまが惜しみない支援を提供し、こどもたち自身が学びを深め、発信することで、より豊かな学習環境が生まれています。

今後は、これまでの活動を土台にしながら、新たな視点やアプローチを取り入れ、さとうみ学習がより充実したものとなることを期待しています。

今後も、学校・地域・事業者・専門家が連携し、こどもたちが主体的に学び、地域社会とつながる機会を創出していくことが重要です。学びの場は教室の中だけにとどまらず、海や地域の資源を活用した多様な体験活動へと広がっていくでしょう。

また、学びの成果をより多くの人々と共有し、地域に還元することで、さとうみ学習は地域づくりにも貢献できるはずです。こどもたちの学びが地域の活性化につながり、未来の担い手を育てる大切な役割を果たすことを願っています。

最後に、これまでさとうみ学習の推進に関わってくださった全ての皆さまに心から感謝申し上げます。これからも、さとうみ学習のさらなる発展に向けて、引き続き御支援と御協力をよろしくお願いいたします。